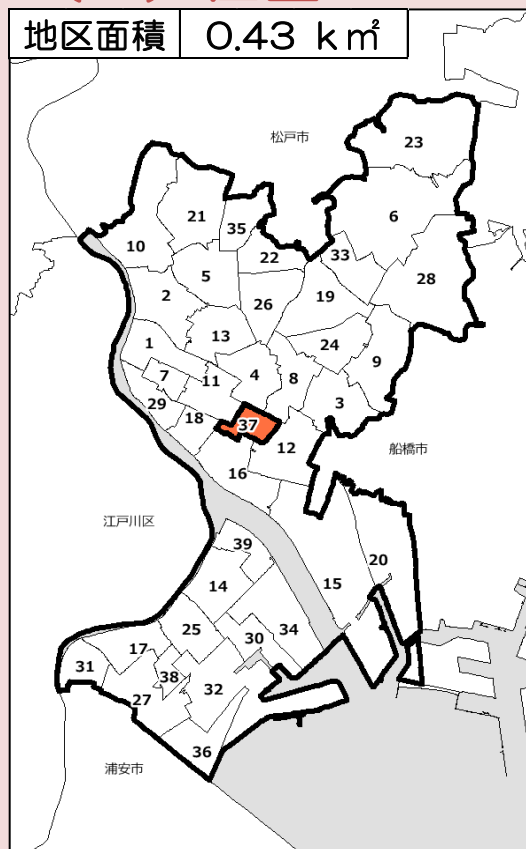


37 大和田小学校区

(1) 位置



(2) 地区概況

◆位置

大和田小学校区は市の中央部に位置しています。

◆地形・土地利用

地形は、氾濫平野で構成されています。
地区の東側は第一種住居地域等の住宅地となっています。地区内にあるJR総武本線の本八幡駅の南側は商業地域となっており、数多くの商業施設等が建ち並んでいます。

◆都市基盤

地区内の北部の一部は、土地区画整理事業により整備されています。西から北にかけて県道6号線、南北にかけて都市計画道路3・4・18号線が通っています。
また、地区の北側にはJR総武線が通っており、本八幡駅があります。地区内には、行徳方面行きの京成トランジットバスが通っています。

(3) 人口・建物概況

◆人口

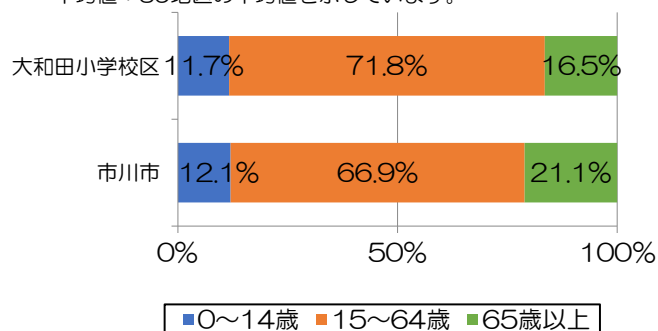
年齢別割合

	大和田小学校区	市川市	割合※
人口総数	11,271人	487,621人	2.3%

※割合：市全体の総数に対する地区総数の割合

平均値 12,503人

平均値：39地区の平均値を示しています。



◆建物

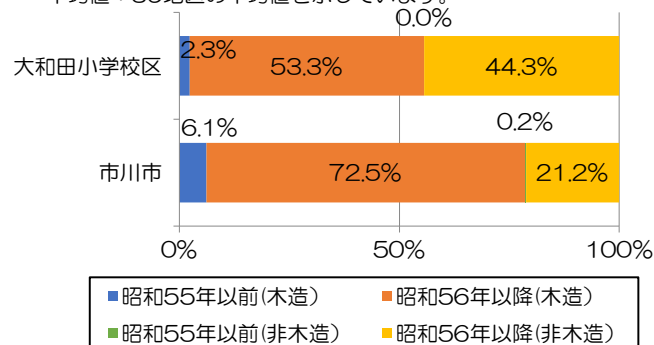
構造別割合

	大和田小学校区	市川市	割合※
建物総数	1,369 棟	114,958 棟	1.2%

※割合：市全体の総数に対する地区総数の割合

平均値 2,948棟

平均値：39地区の平均値を示しています。



地区の人口は、全地区の平均人口よりやや少ないです。また、市全体と比較すると15～64歳以上の割合が高く、比較的若い世代が多い地区となっています。

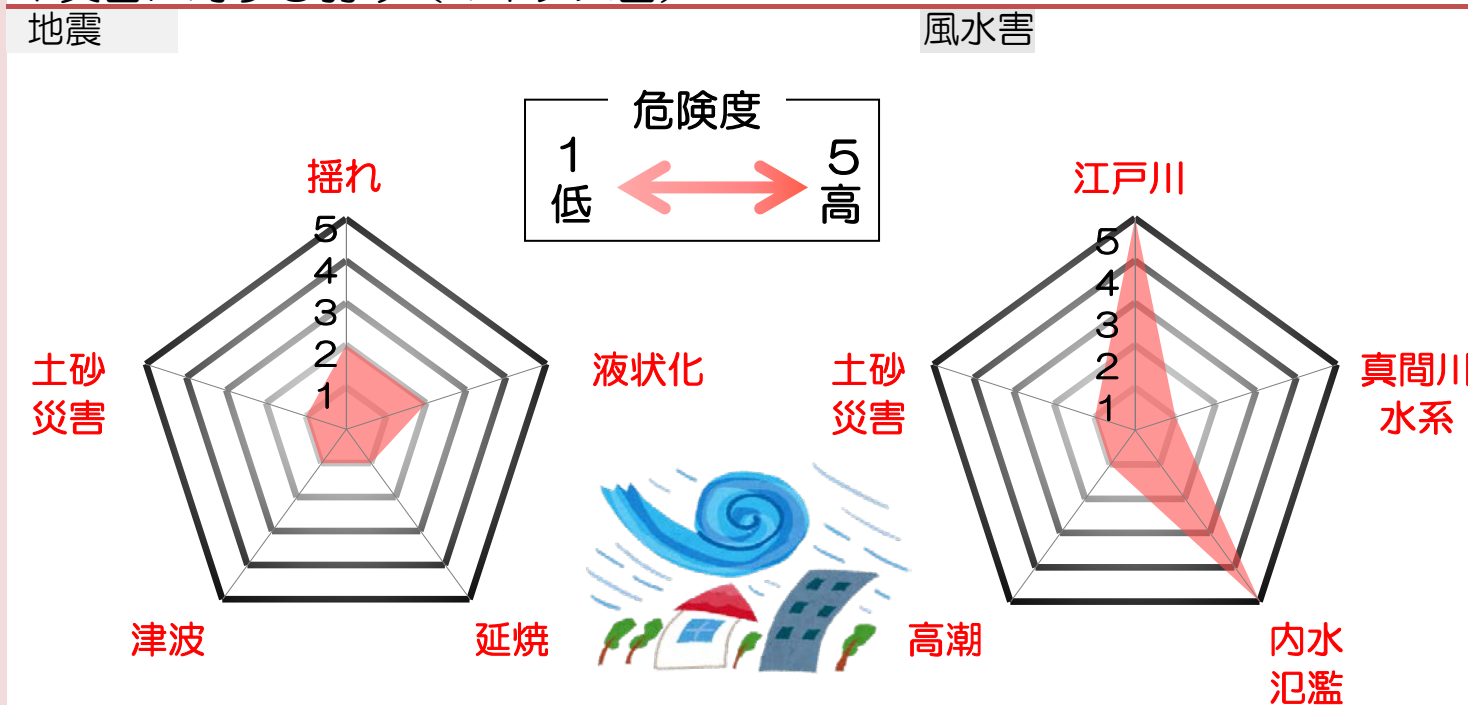
地区の建物は、全地区の平均棟数より少なです。市全体と比較すると昭和56年以降の新耐震基準の建物割合が高いです。また、非木造建物が多い地区となっています。

(4) 災害リスク評価

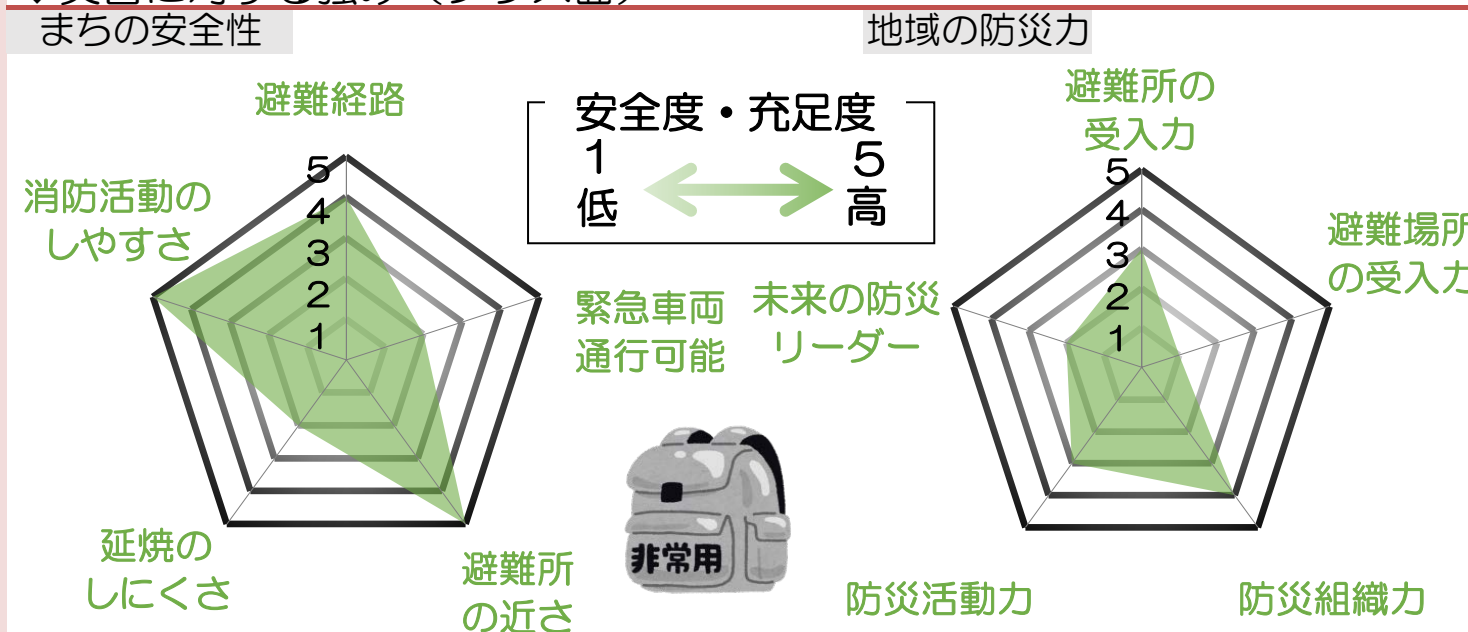
市川市防災カルテ < 大和田小学校区 >

災害に対する弱み（マイナス）については、5に近づくほど危険度が高くなり、災害に対する強み（プラス面）については、5に近づくほど安全度や充足度が高くなります。災害リスクは、後述の地震被害想定や浸水想定の結果、各地区の現況データを用いて相対的に評価しています。なお、危険性がない場合でも1となります。

◆災害に対する弱み（マイナス面）



◆災害に対する強み（プラス面）



◆評価

大和田小学校区は、地震災害については、最大震度6弱の揺れが予測され、液状化による危険性があります。また、風水害については、近くに江戸川が流れていることから、江戸川の氾濫による浸水の危険性が高く、低地であることから内水氾濫の危険性も高い傾向にあります。一方で、まちの安全性については、避難所の近さや消防活動のしやすさは高い傾向にあるものの、延焼のしにくさや緊急車両通行可能は低い傾向にあります。また、地域の防災力については、防災組織力は高い傾向にあるものの、避難場所の受入力は低い傾向にあります。

（５）防災関連施設

◆避難所及び福祉避難所

施設名	福祉避難所	施設名	福祉避難所
大和田小学校	-		
文化会館	○		

◆避難場所

名称
大和田小学校

◆地区内の主な施設

種別	施設名	施設名	種別	施設名
要配慮者利用施設（公設）	東大和田保育園		医療救護所	なし
			関連施設	なし
			-	
			-	
			-	

要配慮者利用施設（民設）

16



※要配慮者利用施設は浸水想定区域内に立地する施設を示しています。

（６）被害想定結果（地震・風水害）

◆地震災害（被害を受ける割合）

想定項目		大和田小学校区	市川市全体
建物被害	全壊棟数の割合（揺れ・液状化・急傾斜地崩壊）	2.6%	3.3%
	半壊棟数の割合（揺れ・液状化・急傾斜地崩壊）	13.6%	15.6%
	焼失棟数の割合	1.0%	5.5%
	浸水棟数（津波）の割合	0.0%	1.0%
人的被害	死者の割合	0.0%	0.1%
	負傷者の割合	5.9%	7.3%
	避難者の割合	0.6%	0.9%



◆風水害（被害を受ける割合）

想定項目		大和田小学校区	市川市全体
建物被害	浸水棟数（江戸川）の割合	100.0%	52.0%
	浸水棟数（真間川）の割合	0.0%	13.6%
	浸水棟数（内水）の割合	91.6%	20.5%
	浸水棟数（高潮）の割合	0.0%	1.5%



市全体の結果と比較すると、地震災害については、非木造建物が多いこともあり、建物被害はやや少ない傾向となっています。また、人的被害については、死者及び避難者はほぼ同程度ですが、負傷者数については、市全体よりやや少なくなっています。

一方で、風水害については、江戸川の氾濫や内水氾濫による影響が大きくなっており、市全体と比較して浸水棟数も多くなっています。

（７）防災上の課題

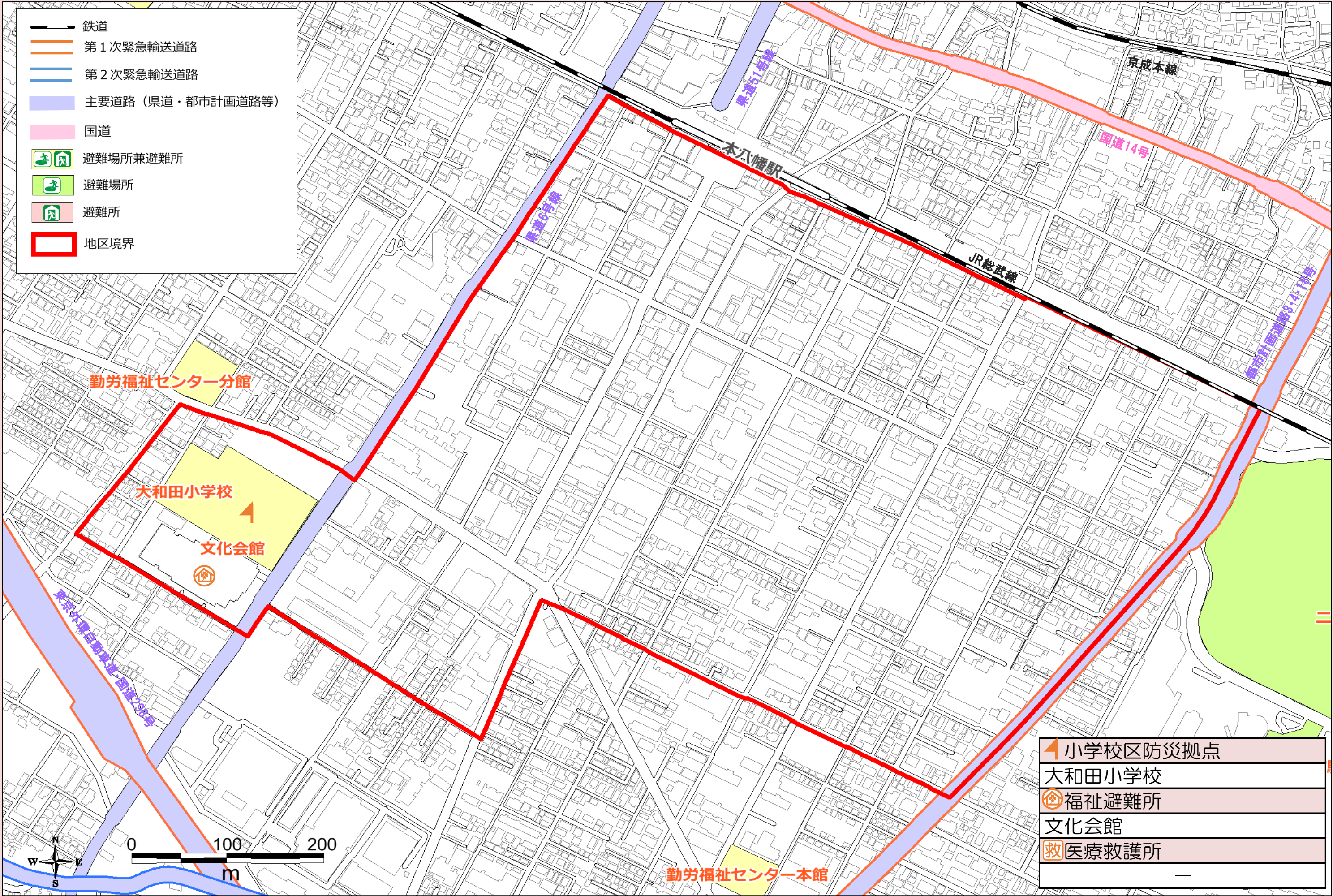
市川市防災カルテ < 大和田小学校区 >

項目	課題
地震	地区全域において、震度６弱の揺れが予測され、危険性は総じて低いですが、揺れや液状化の危険性があり、また、過去には液状化も発生していることから、耐震対策やライフライン途絶に備えた備蓄対策が重要です。
風水害	地区の近くに江戸川が流れていることによる浸水被害、低地であることから内水氾濫による浸水被害の恐れがあり、また、過去には床上浸水及び床下浸水、道路冠水も発生していることから、浸水対策や円滑な避難に備えることが重要です。
まちの安全性	地区内には、狭い道路が多いことから、緊急車両が通る道の確保が重要です。
地域の防災力	地区内では、避難場所の充足度が低いことから、自宅での在宅避難や地区外での避難に備えることが重要です。

（８）防災対策の方向性

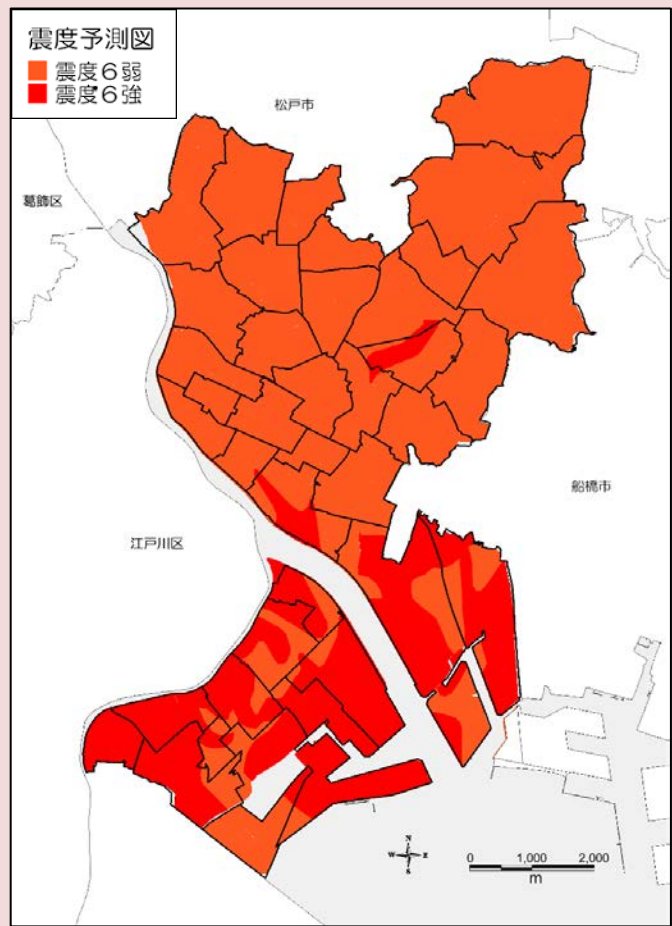
項目	取組の方向性
地域の取組	地区内には、狭い道路が多く、避難ルートの確保が大切であることから、市の助成制度である「危険コンクリートブロック塀等除却」や「生垣助成」の助成を利用したブロック塀等の倒壊による災害防止と、日頃から安全なルートを確認しておくことが効果的です。 また、災害時に負傷者や火災が発生した場合、即座に応急手当や初期消火ができるように、高い防災組織力を活かし、地域で初期対応の訓練を実施するなどの対策が効果的です。 江戸川の氾濫による危険性が高く、避難場所の収容力も低いことから、近隣地区の避難場所等も確認し、あらかじめ避難する場所について地区の中で情報共有を行うことが重要です。
個人の取組	地震に対する備えとしては、市の助成制度である「耐震改修助成制度」を利用した耐震改修工事による自宅の耐震化対策や、「あんしん住宅助成」を利用した感震ブレーカーの設置、家庭内での水や食糧の備蓄をするなど、自宅（家庭）の防災性を向上させることが効果的です。 一方、風水害に対する備えとしては、市の助成制度である「あんしん住宅助成」を利用した防水板の設置、土のうステーション等を利用した土のうの設置による浸水対策や、円滑に避難できるよう市からの情報収集方法や、浸水想定区域外での避難場所等をあらかじめ洪水ハザードマップ等で確認しておくことが効果的です。 避難経路の確保ができない可能性が考えられることから、まちあるき等を通して避難経路についてあらかじめ決めておくことが必要です。

(9) 防災マップ



(10) 基礎資料

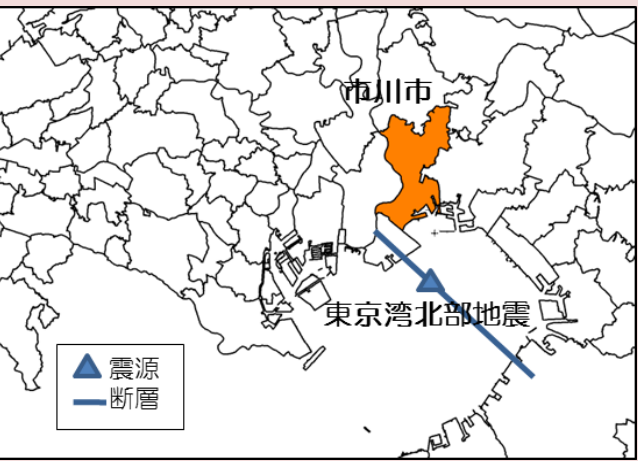
①市全域の震度分布図



本カルテには、東京湾北部を震源域とする地震が発生した場合の結果です。震度分布図を見ると、市の北部は震度6弱、南部は震度6強と予測されています。

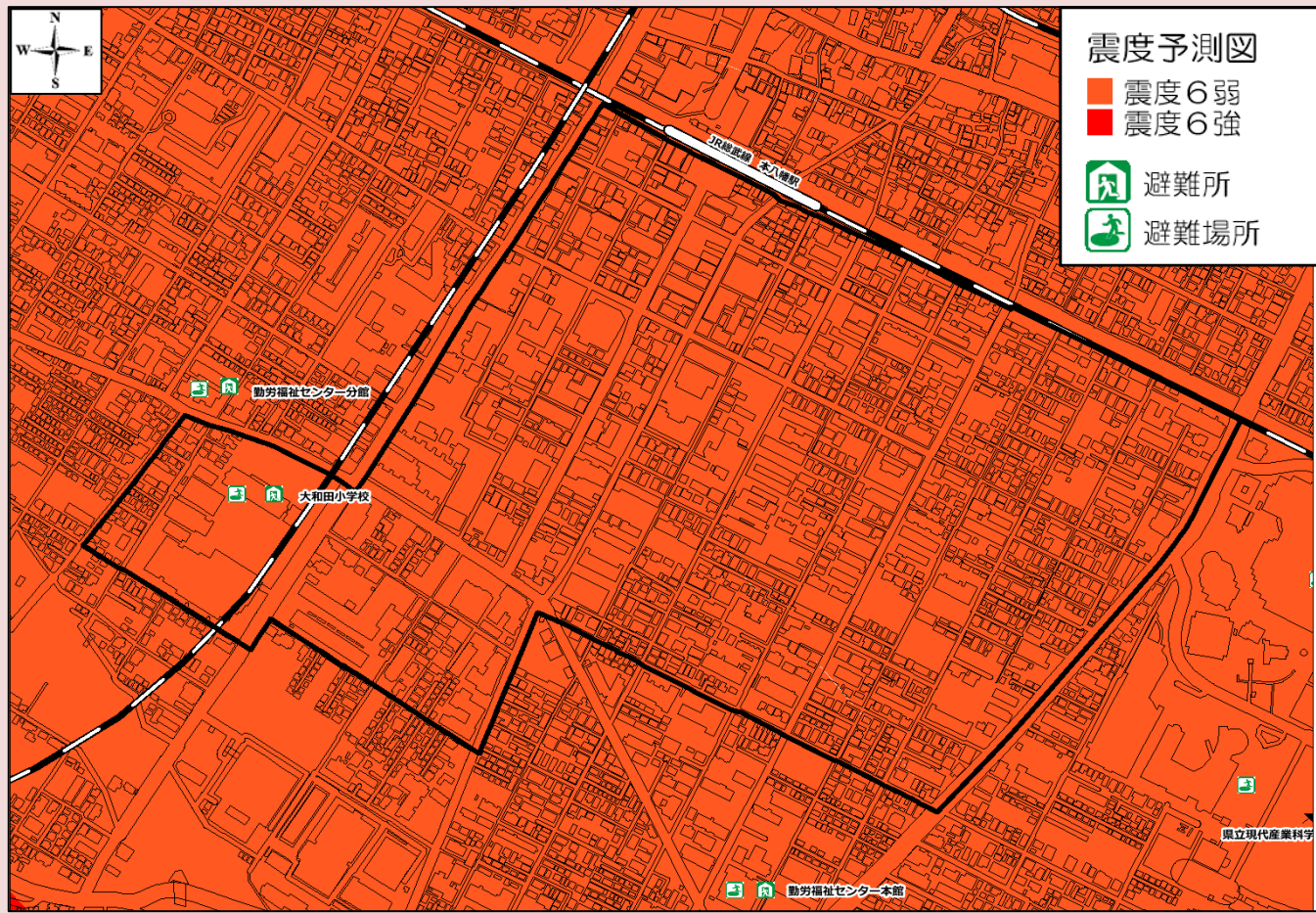
想定地震	東京湾北部地震
マグニチュード	7.3 (震源深さ：20km程度)

▼震源

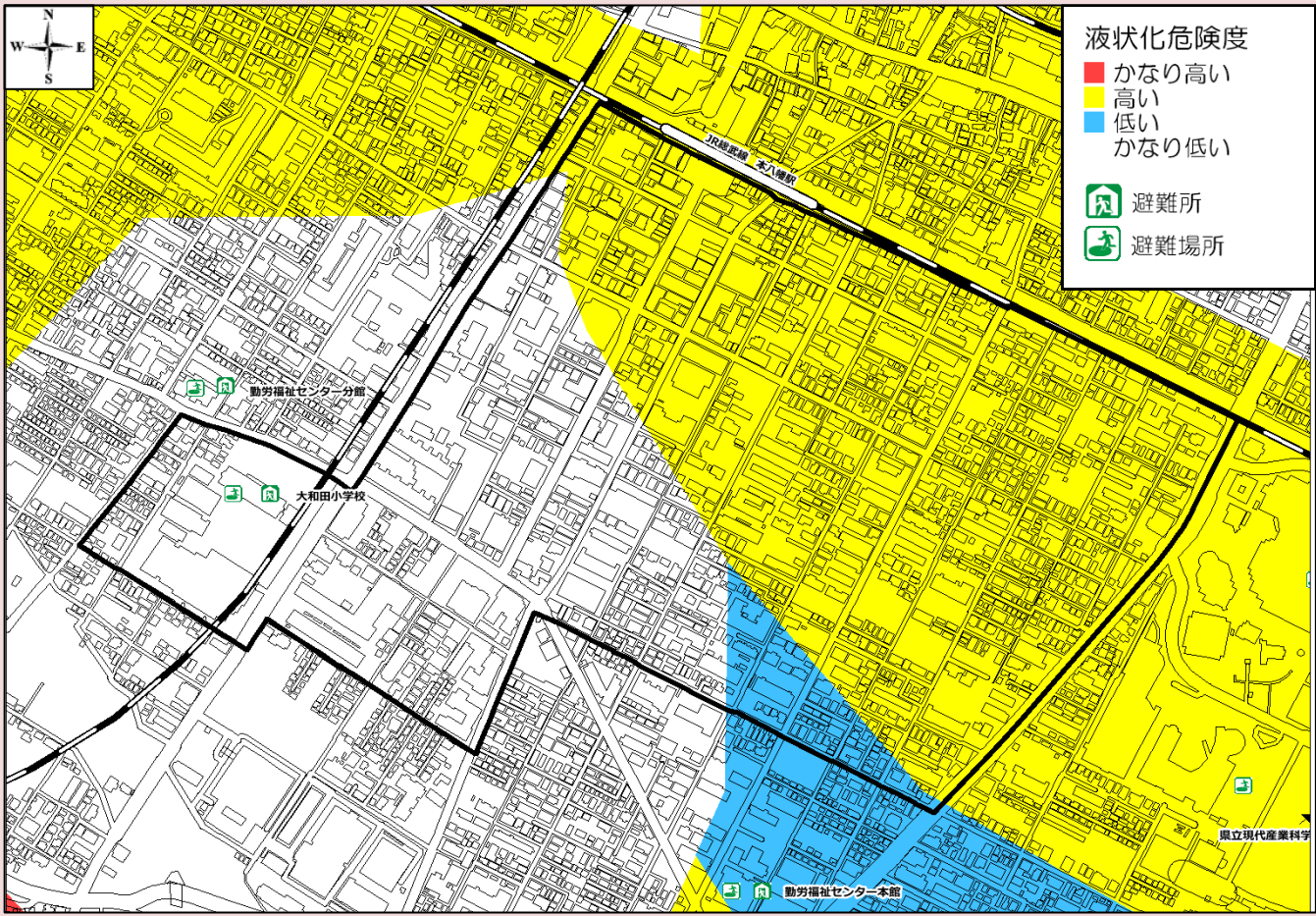


※本結果は市川市地震被害想定結果（平成24年度）に基づいています。

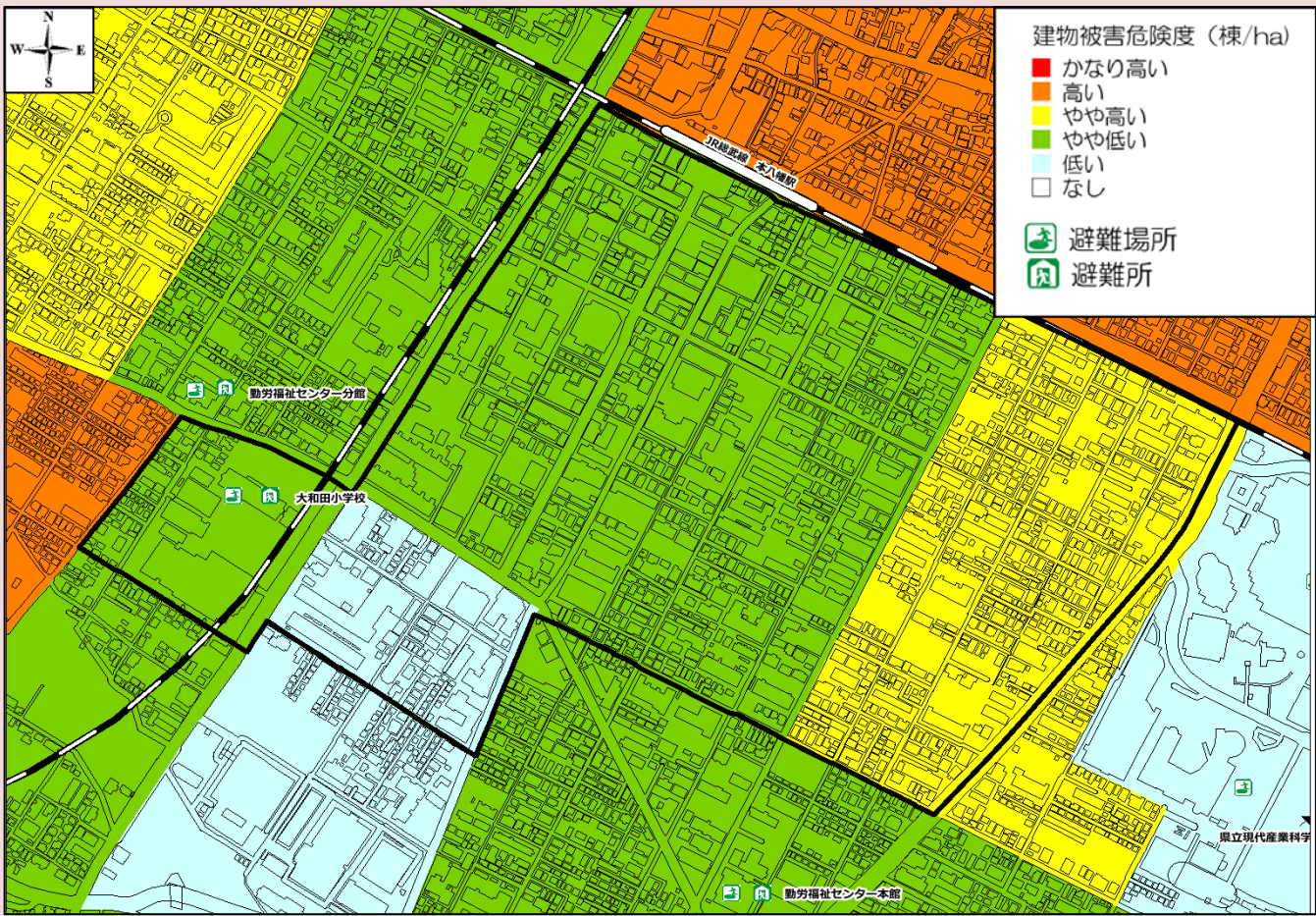
②震度分布図



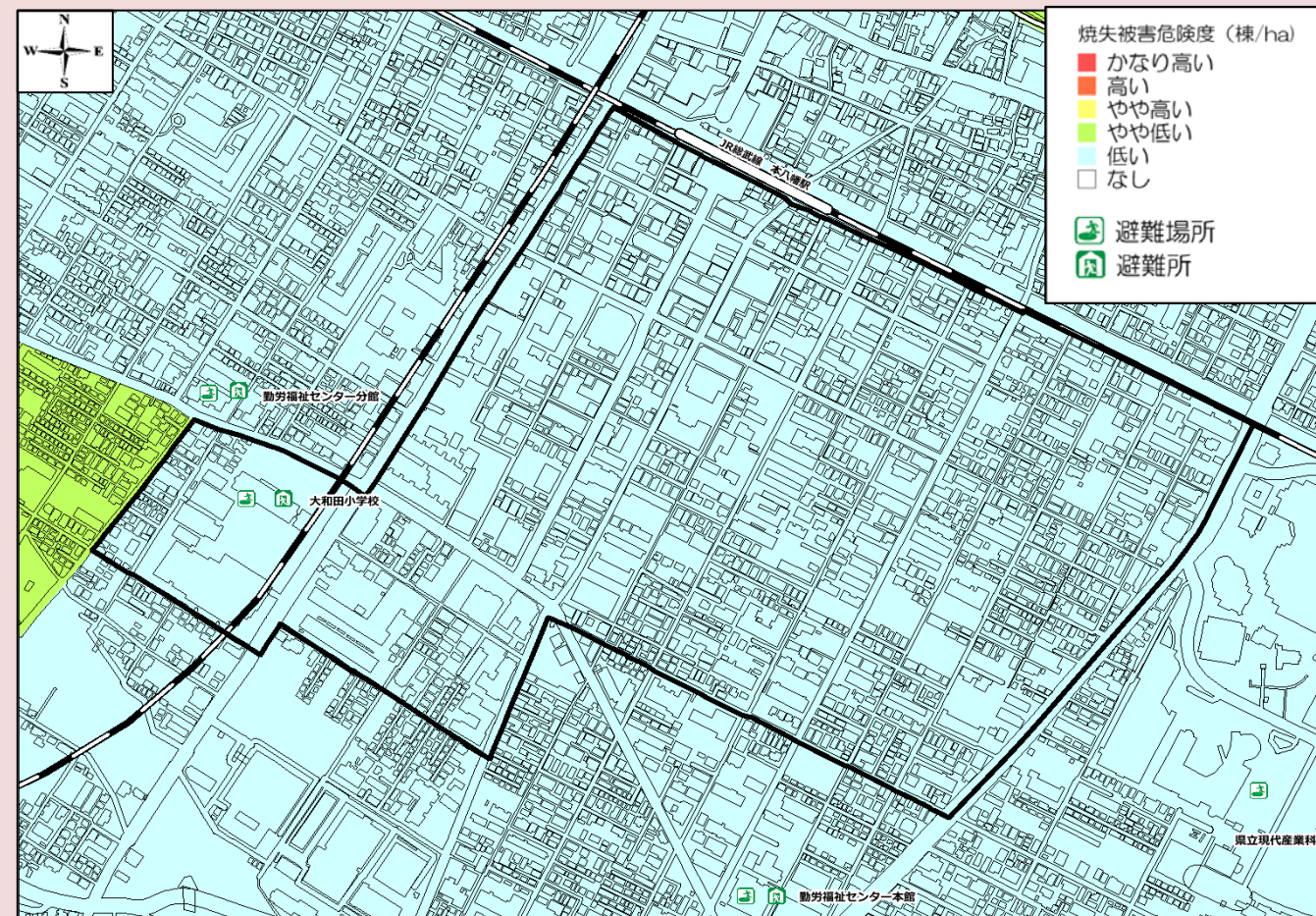
③液状化危険度



④建物被害（揺れ・液状化による被害）



⑤建物被害（延焼による被害）



⑦浸水想定の概要

江戸川の氾濫及び真間川の氾濫、内水の氾濫、高潮による浸水想定区域を示しています。

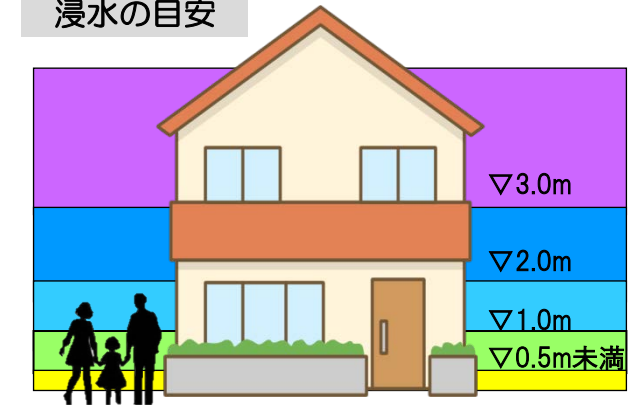
災害時にすばやく避難できるようにあらかじめ近隣の避難所及び避難場所について確認しましょう。

また、避難経路上の浸水状況も確認しておきましょう。

水の深さ

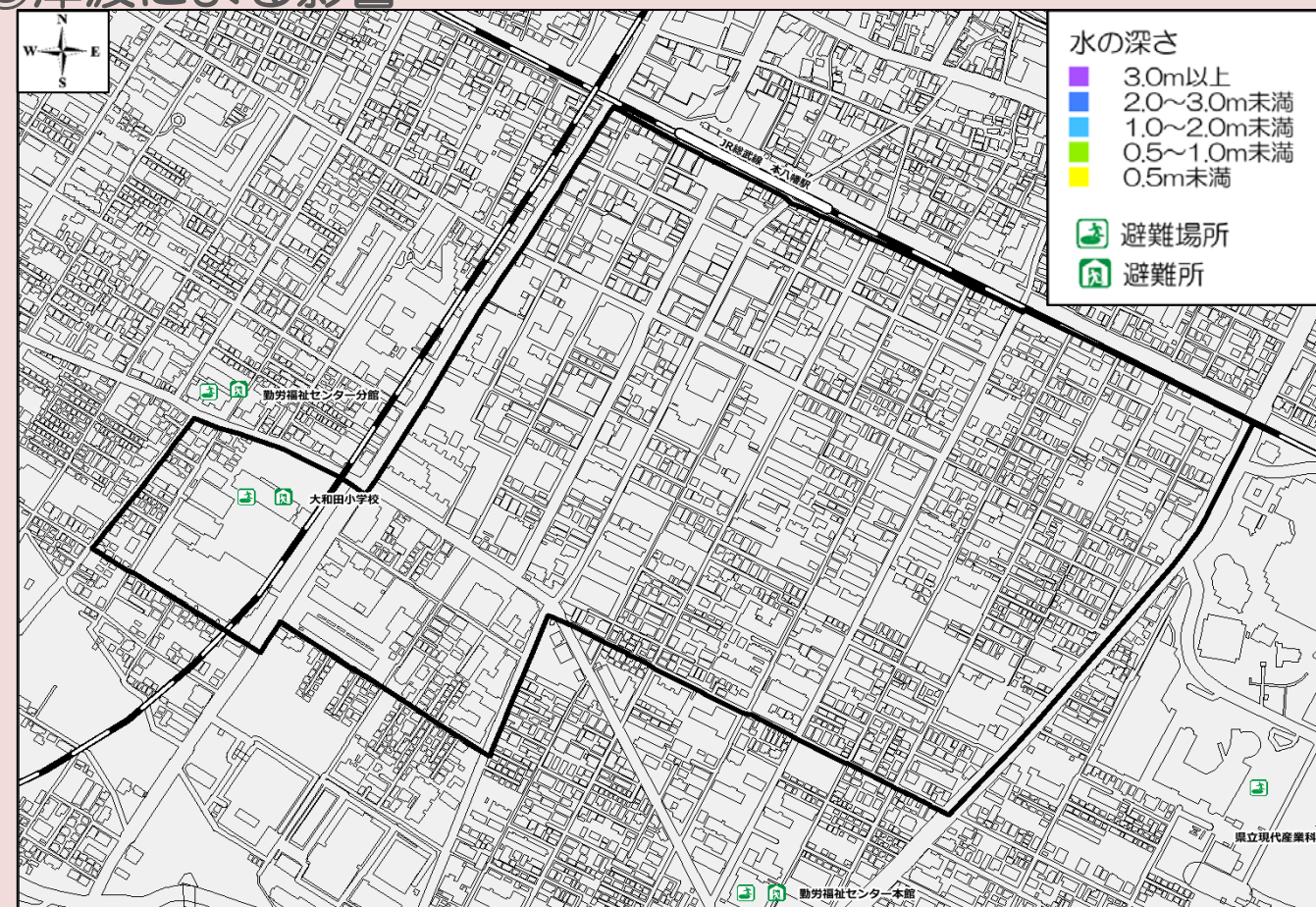
- 水の深さが3.0m以上
- 水の深さが2.0～3.0m未満
- 水の深さが1.0～2.0m未満
- 水の深さが0.5～1.0m未満
- 水の深さが0.5m未満

浸水の目安



※浸水の凡例区分及び配色については市川市で任意に設定しています。

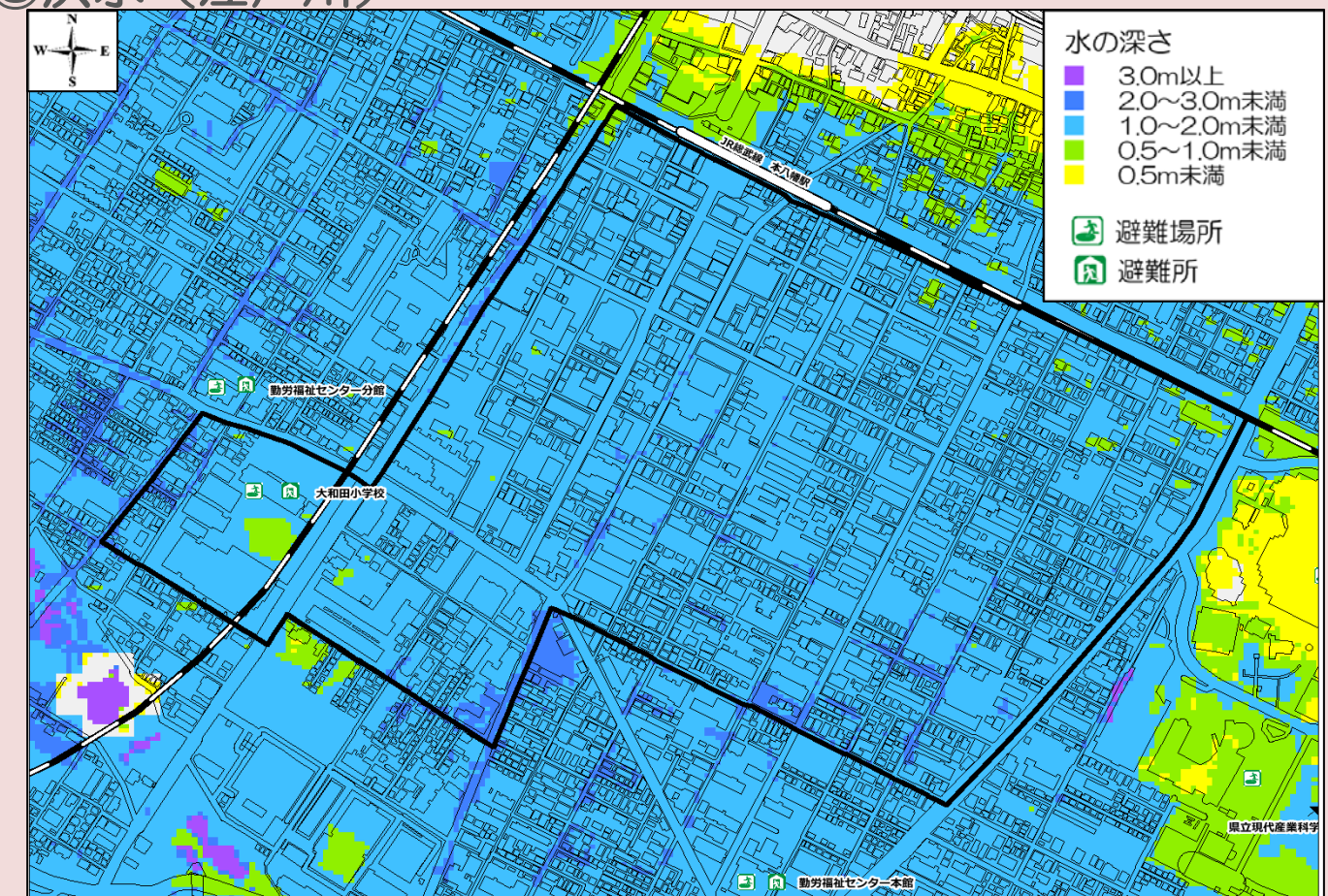
⑥津波による影響



※津波の河川遡上による市街地への影響はありません。

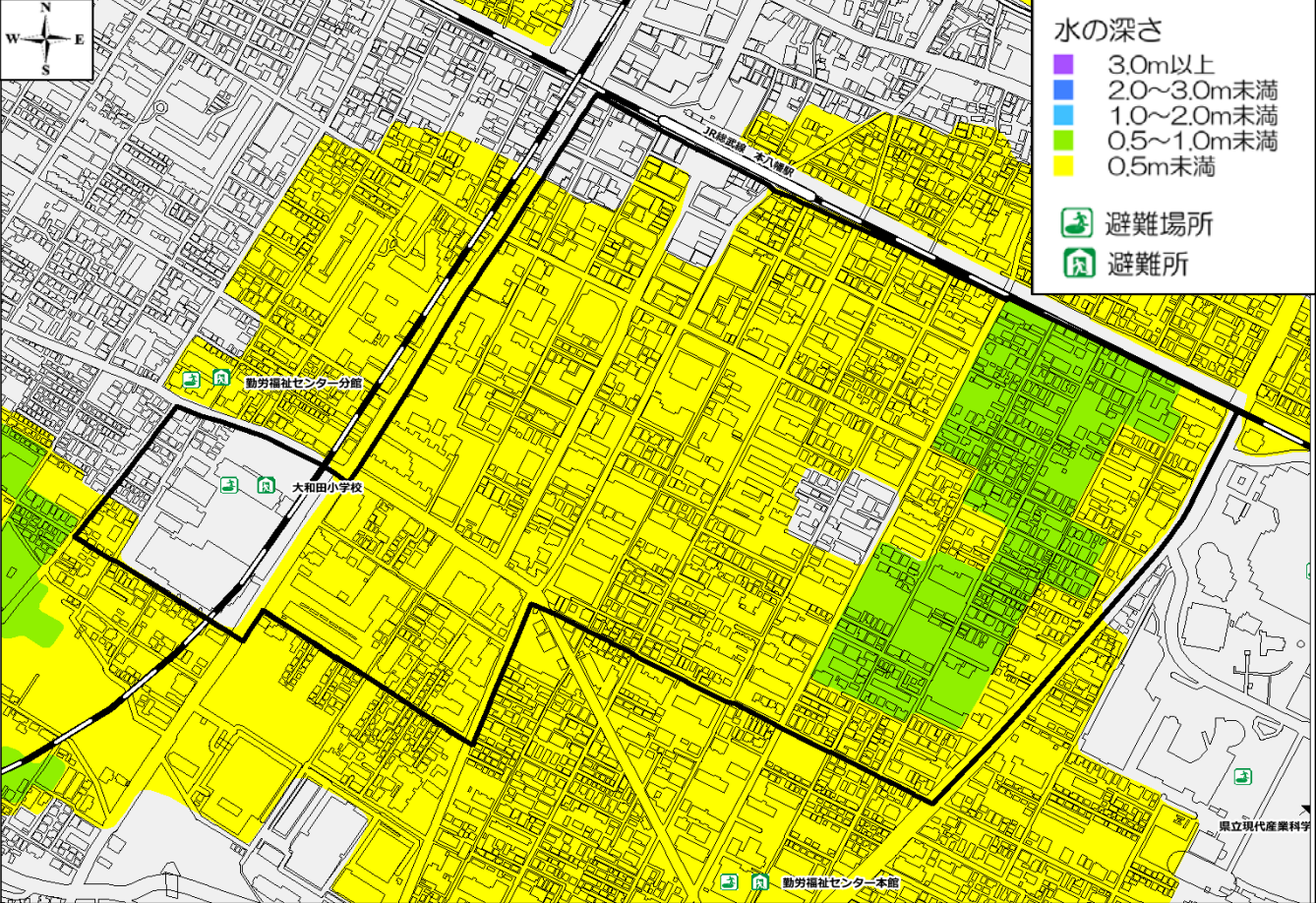
平成24年4月：千葉県

⑧洪水（江戸川）



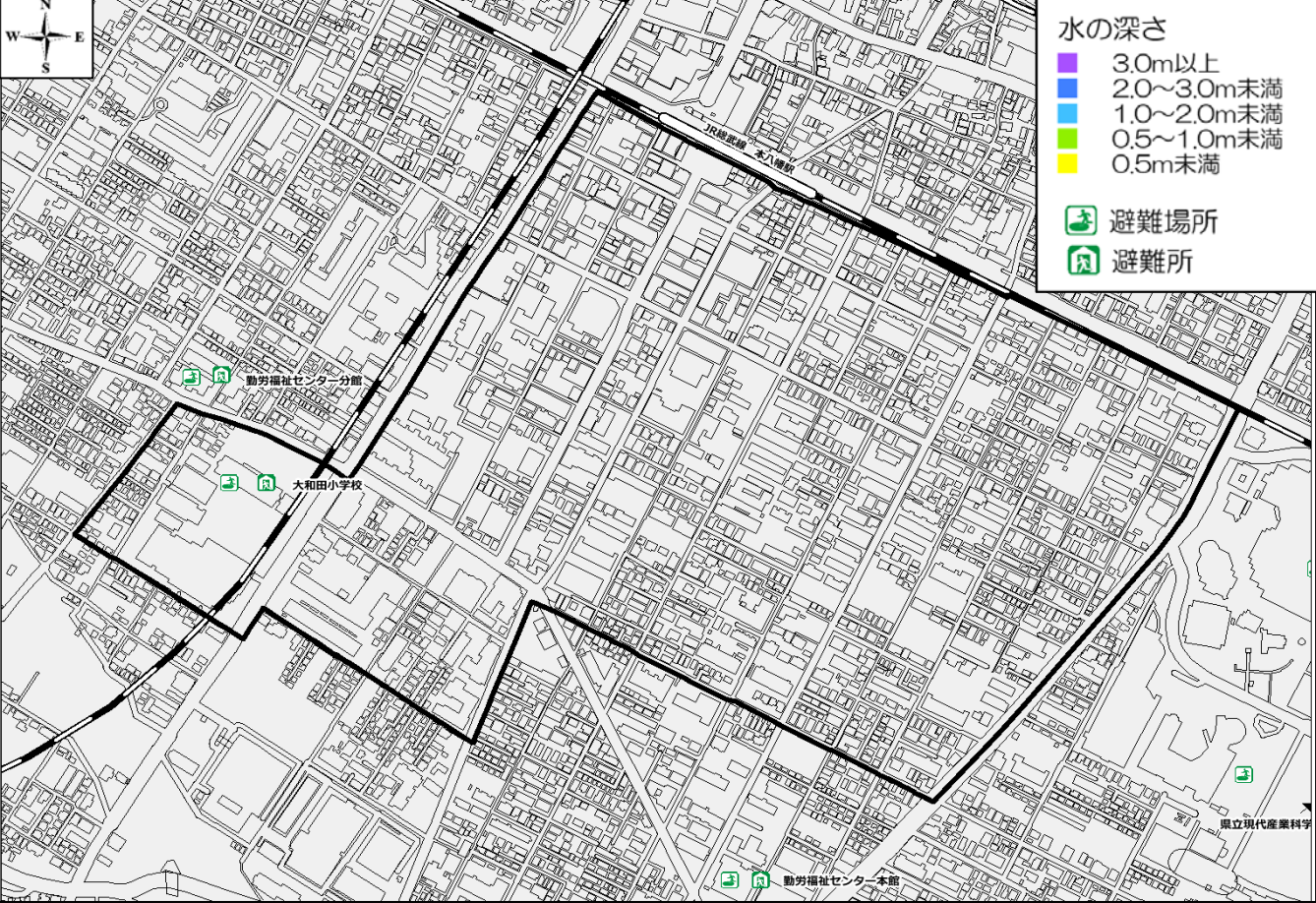
平成29年7月：国土交通省

⑨真間川水系・内水氾濫



平成18年3月：千葉県、市川市

⑩高潮



平成21年4月：国土交通省

◆メモ

Large empty box for notes.

